

第2部

「創造定住拠点」形成に必要な5つの視点

01 「創造定住拠点」形成に必要な方針は？

- ①地域独自の資源、②創造的活動の支援環境、③人的資源の育成・誘致、
④コミュニケーションの場、⑤利便性・安心感の5つの視点が重要

総務省「創造的人材の定住・交流の促進に向けた事例調査(H24.3)」に掲載されている5つの視点を参考とし、「創造定住拠点」先進地域で活躍するプレイヤーへのヒアリング結果等を活用して、「創造定住拠点」形成のプロセス(交流→移住→定住)に必要な5つの視点を導き出しました。

まず、交流促進に必要な視点として、①地域独自の資源の有効活用が挙げられます。三大都市圏から中国圏・四国圏への交流を促進する上で、三大都市圏では体験できないコトを提供していく必要があります。

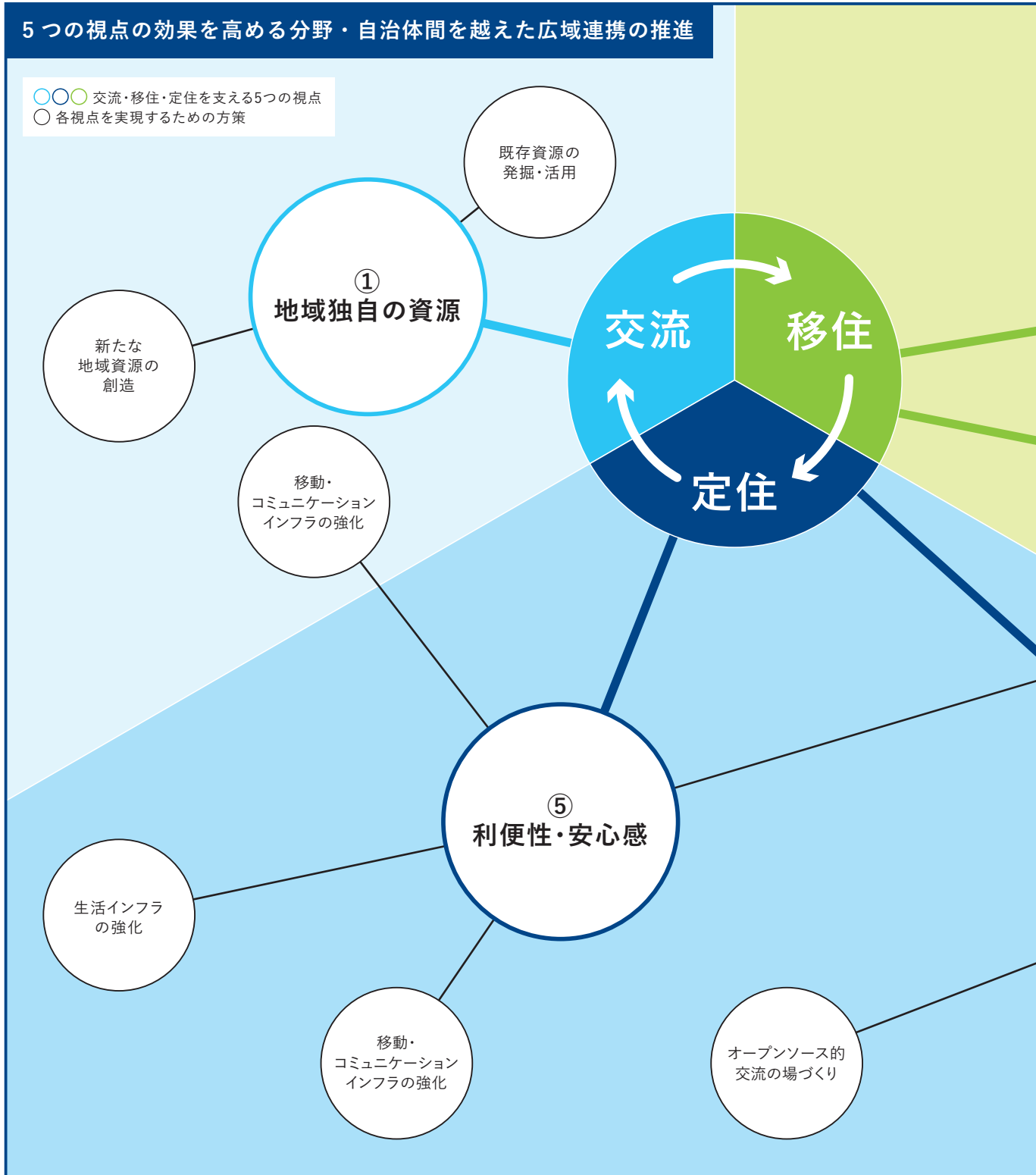
次に、移住促進に必要な視点として、②創造的活動の支援環境の創出、③人的資源の育成・誘致が挙げられます。関係人口・移住希望者に移住先として選択してもらう上で、関係人口・移住希望者が新しい取組を行いやすい環境整備、地域側の受入体制等を育成・強化していく必要があります。

そして、定住促進に必要な視点として、④コミュニケーションの場の形成、⑤利便性・安心感の創出が挙げられます。移住者が住み続け

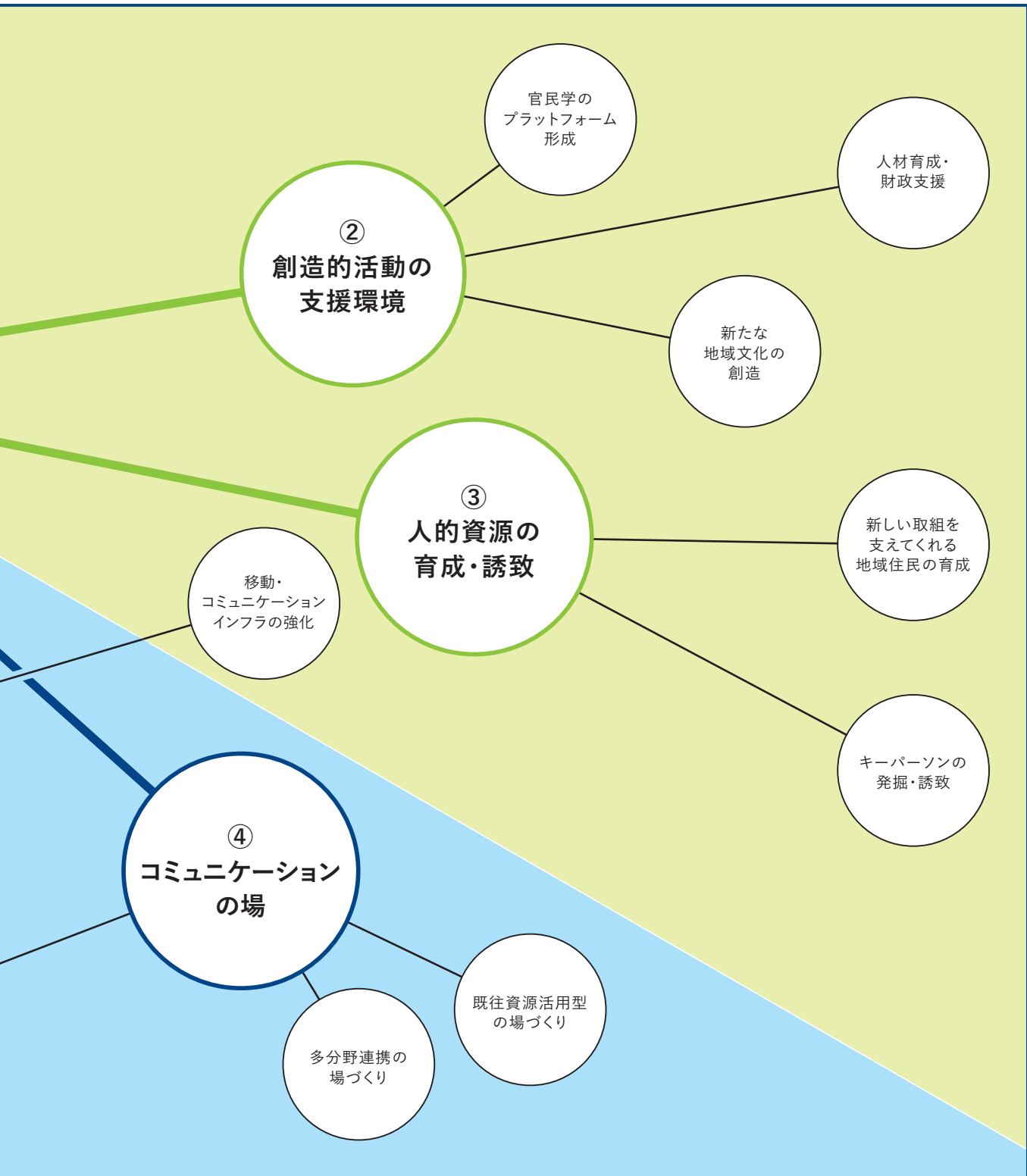
られる地域の実現に向けて、地元住民や移住者がコミュニケーションを図れる場の形成、他地域への移動利便性の向上、どこにいても働ける場の形成(サテライトオフィス等)等を促進していく必要があります。

なお、5つの視点に基づく取組については、多様な自治体(都市・農山漁村)と広域的に連携しながら取組んでいくことも重要な視点です。各タイプの自治体が相互に連携することにより、5つの視点の効果を高めていくことも可能です。

●「創造定住拠点」形成に必要な5つの視点



※総務省「創造的人材の定住・交流の促進に向けた事例調査(H24.3)」に掲載されている5つの視点を参考とし、定量的分析、ヒアリング結果等より加筆修正



02 交流→移住→定住のサイクルを実現するためには？

三大都市圏から関係人口・移住希望者を呼び込む上で、まずは交流により地域を知ってもらい、移住・定住のサイクルに導いていくことが重要

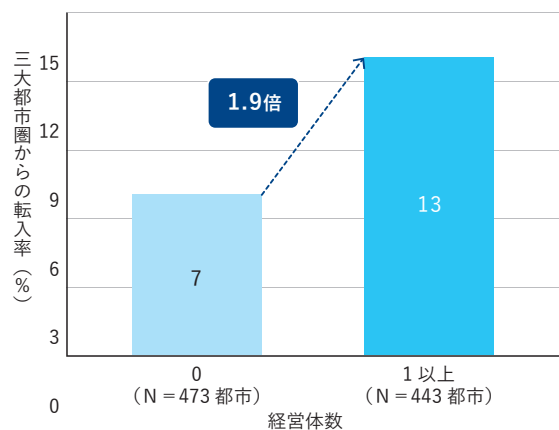
「創造定住拠点」形成を進めていく上で、まずは交流により地域を知ってもらい、移住・定住のサイクルに関係人口・移住希望者を導いていくことが重要です。

例えば、グリーンツーリズムにおける農家民

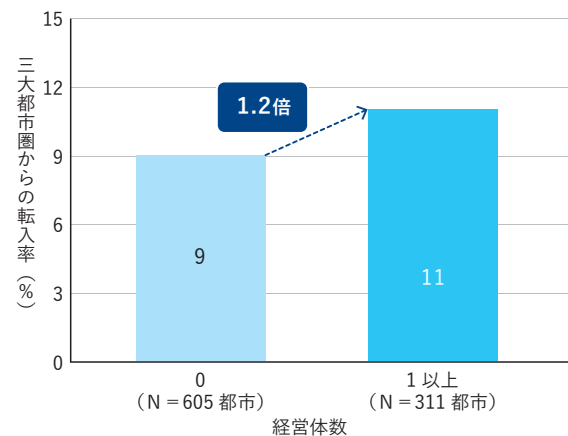
宿や観光農園事業などは交流事業としての側面も有していると考えられますが、それらの取り組みを実施する農業経営体が存在する地域では、存在しない地域に比べて三大都市圏からの転入率が高い傾向にあります。

●グリーンツーリズムが三大都市圏から農山漁村地域への転入に与える影響(中国圏・四国圏)

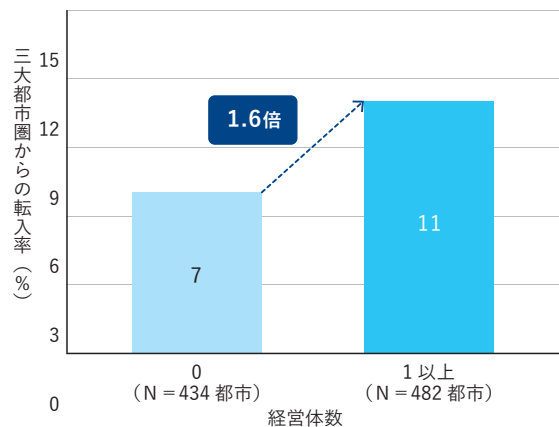
●貸農園・体験市民農園等事業



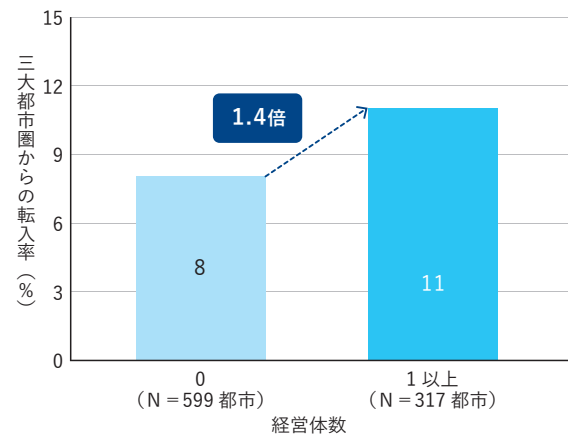
●農家民宿事業



●観光農園事業



●農家レストラン事業



※人口規模10万人未満(DID指定なし)、かつ三大都市圏を除く市町村を農山漁村地域と定義。
 ※グリーンツーリズムは「貸農園・体験市民農園等事業」・「観光農園事業」・「農家民宿事業」・「農家レストラン事業」と定義。
 ※三大都市圏は、東京圏・大阪圏・名古屋圏と定義。 ※三大都市圏からの転入率は、市町村単位の値を単純平均した値。
 出典：総務省統計局「国勢調査(H27年)」、農林水産省「地域の農業を見て・知って・活かすDB(H27年)」、住民基本台帳人口移動報告(H28年)

03 「創造定住拠点」形成に必要な5つの視点とは？

〈視点1〉地域独自の資源

方策1-1 既存資源の発掘・活用

中国圏・四国圏の強みでもある自然豊かな環境、歴史的なまちなみ、食文化やアニメ・漫画、地域固有の文化の有効活用が挙げられます。

●写真／広島県より提供

●既存資源の発掘・有効活用事例：しまなみ海道サイクリング



方策1-2 新たな地域資源の創造

既存資源の組み合わせによる新たな地域資源の創造が挙げられます。例えば、歴史的まちなみ×アニメ・漫画、自然豊かな環境×食文化(スローフード)等が挙げられます。

●写真(上段)／広島県より提供
●イラスト(下段)／アニメ(たまゆら)
©佐藤順一・TYA／たまゆら製作委員会

●新たな地域資源の創造事例：町並み保存地区×アニメ(たまゆら)(広島県竹原市)



〈視点2〉創造的活動の支援環境

方策2-1 官民学のプラットフォーム形成

創造的人材等の創造的活動の受け皿となる多様な主体により形成されるプラットフォーム（協議会等）の形成等が挙げられます。

※ひろしまサンドボックスとはAI/IoT、ビッグデータ等の最新のテクノロジーを活用することにより、広島県内の企業が新たな付加価値の創出や生産効率化に取り組めるよう技術やノウハウを保有する県内外の企業や人材を呼び込み、様々な産業・地域課題の解決をテーマとして共創で試行錯誤できるオープンな実証実験の場

出典：ひろしまサンドボックスHP
(<https://hiroshima-sandbox.jp/R2.2閲覧>)

●官民学のプラットフォーム形成事例：ひろしまサンドボックス（広島県）



方策2-2 人材育成・財政支援

創造的人材等が移住する際のインセンティブとなる地域おこし協力隊制度を活用した人材育成、創造的活動への財政支援等が挙げられます。

出典：徳島県：サテライトオフィス誘致パンフレット「南阿波LIFE」

●人材育成・財政支援事例：「四国の右下」サテライトオフィス認定制度（徳島県）

サテライトオフィス開設企業の「南阿波 LIFE」を全力でサポートする「四国の右下」若者創生協議会。

「四国の右下」若者創生協議会とは、徳島県をはじめ、四国の地方自治体や民間企業が連携し、それぞれの資源・技術を共有することで、地域情報の発信、移住者サポート、サテライトオフィス誘致などを推進するために設置された組織です。私たちは徳島県南部圏域のサテライトオフィスを対象に、さらにより良いオフィス環境の提供を目指し、滞在や移動に対するコスト低減、広報、採用、情報共有のサポートを行う制度を構築しました。

「四国の右下」サテライトオフィス認定制度

サテライトオフィス運営を支える多彩なサポート内容

- 空港から現地までの移動コスト低減のサービスが受けられます。
- 現地滞在施設の優先的利用ができます。
- 現地滞在施設の滞在コスト低減のサービスが受けられます。
- 地域の祭り、行事、イベント等の情報が定期的に受けられます。
- サテライトオフィスに関する取材の情報を受けられます。
- サテライトオフィス向けの現地雇用（採用）イベント等の情報を受けられます。
- インターンシップやハッカソンの開催の情報を受けられます。

申請から認定までの期間 **1ヶ月程度**

方策2-3 新たな地域文化の創造

創造的人材等の活躍による従来地域になかった新たな地域文化(IT×他分野の連携、アーティスト・イン・レジデンス等)の創造が挙げられます。

●写真/尾道市より提供

●新たな地域文化の創造事例:アートプロジェクト(広島県尾道市)



〈視点3〉人的資源の育成・誘致

方策3-1 新しい取組を支えてくれる地域住民の育成

創造的人材等と多様な市民との交流・マッチングを促進するプラットフォームの形成、地域住民による地域コーディネーター等の中間支援組織の育成等が挙げられます。

出典:総務省資料
(https://www.soumu.go.jp/main_content/000325638.pdf,R2.2閲覧)

●新しい取組みを支えてくれる地域住民の育成事例:定住促進支援員(島根県邑南町)

Uターン者の悩み

- ・移住したくても「**住むところがない**」
- ・地域の「**しきたり**」になじめない
- ・相談相手がいなくて「**孤立**」する
- ・希望する「**就職先がない**」など

Uターン者ケア

定住支援コーディネーター

定住促進支援員
人望が厚く地域の状況に精通している人

移居前・移住後のUターン者が地域になじめるように相談窓口

The infographic features a textured background with illustrations of a house with a red 'X' over it, a person with a red 'X' over their head, and a person with a red 'X' over their mouth. A large blue plus sign is positioned between the '定住支援コーディネーター' and '定住促進支援員' sections. A photograph of a man in a suit is shown in the bottom right corner.

方策3-2 キーパーソンの発掘・誘致

大都市圏から中国圏・四国圏への創造的人材等誘致に向けたWEBによる情報発信等の取組が挙げられます。

*「ひろしま里山ウェーブ」とは広島県の里山に、楽しみながら「人が集まる波を起こしていこう」という趣旨で、地域貢献に高い意欲を持つ首都圏のソーシャルな若者と広島県の中山間地域とのマッチングを図るプロジェクトです。

出典：ひろしま里山ウェーブHP
(<http://hirosatowave.com/>,R2.2閲覧)

●キーパーソンの発掘・誘致事例：ひろしま里山ウェーブ(広島県)



〈視点4〉コミュニケーションの場

方策4-1 既往資源活用型の場づくり

人口減少により発生する空き家、廃校等の遊休不動産のリノベーションによる交流の場の形成が挙げられます。

●写真／鳥取県八頭町より提供

●既往資源活用型の場づくり事例：小学校リノベーションの隼Lab.(鳥取県八頭町)



方策4-2・3 オープンソース的交流、多分野連携の場づくり

オープンソース・ソフトウェア(OSS)を活用した多分野交流・連携(例:ビジネスマッチング等)の促進、特定分野の産業クラスターの形成等が挙げられます。

出典:とくしまOSS普及協議会
 (http://www.tokushima-oss.org/,R2.2閲覧)
 徳島県HP
 (https://www.pref.tokushima.lg.jp/ict/governance/promotion/5020525/5020585/,R2.2閲覧)

●オープンソース的交流、多分野連携の場づくり事例:とくしまOSS普及協議会(徳島県)

とくしまOSS普及協議会は、オープンソース・ソフトウェア(OSS)の活用による産業振興を推進します。

OSSの利用拡大への取組

徳島県発！OSSシステムの全国導入累計(H30.6.1)

システム	H25	H26	H27	H28	H29	H30
CMS (Jaruri CMS)	125	144	190	258	293	333
CMS (SHIRASAGI)	6	17	46	72	89	114
グループウェア (Jaruri Gw)	10	12	14	15	16	17
納税管理 (うらで納税管理システム)	4	7	8	9	10	11
オンラインストレージ (DECO)	17	23	24	27	34	40
内部統制管理 (AI)	3	3	5	5	5	5

地元ICT事業者を支援

Tokushima OSS Promotion Association
とくしまOSS普及協議会

OSS活用技術者の育成、OSSによるビジネス展開を支援



若手技術者向け勉強会



地場企業の販路開拓支援

「地方自治情報化推進フェア2018」への出展を支援

地元ICT企業開発のOSS製品の「利用促進」、「販路拡大」をサポート

平成30年10月23・24日(予定)
 東京ビッグサイト(東京国際展示場)

29年度 出展風景

〈視点5〉利便性・安心感

方策5-1 移動・コミュニケーションインフラの強化

広域的交通インフラやサテライトオフィス等に代表されるコミュニケーションインフラの強化が挙げられます。

なお、移動・コミュニケーションインフラの強化については、定住段階だけでなく交流・移住段階にも寄与します。

出典：山口県サテライトオフィスサポートセンターHP
(<http://www.yamaguchi-satellite.jp/R2.2>閲覧)

●移動・コミュニケーションインフラの強化事例：サテライトオフィスの推進（山口県）



方策5-2 生活インフラの強化

周辺市町村と連携した子育て、教育、医療、商業機能等の維持・強化や防災体制の強化等による生活利便性・安心感の向上が挙げられます。

出典：高松市HP
(<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/keikaku/koiki/chusu/index.html>,R2.2閲覧)

●生活インフラの強化事例：瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（高松市等）



01 / 中国圏・四国圏に移住してきた創造的人材の声

「創造定住拠点」形成に必要な5つの視点を導く際に活用した、創造的人材へのヒアリング結果の一部を紹介します。

まず、移住の際にはどのような地域条件が重要か質問したところ、行政担当者の取組への熱量、地域側の受入体制、コミュニティ環境、生活・交通の利便性、人材確保のし易さ等の回答を得ました。この中でも**特に行政担当者の取組への熱量に関する意見が多く、創造的人材にとって初めて住む地域であっても、**

一緒に頑張ろうと応援・支援してくれる地域側人材がいれば心強いことがうかがえます。

次に、中国圏・四国圏の魅力を質問したところ、瀬戸内海の景観や芸術の充実、自然環境、コミュニティの良さ等の回答を得ました。この中でも瀬戸内海は中国圏・四国圏の中央に位置しており、両圏の連携の場(サイクリング等)として機能しています。今後更に両圏の連携を促進していくことにより、創造的人材等の移住が期待されます。

● 創造的人材へのヒアリング結果

施策	意義
移住の際にはどのような地域条件が重要か?	<ul style="list-style-type: none"> ・企業進出のコスト、行政担当者の取組への熱量等。 ・新しい取組を受入れてくれる地域側の受入体制。 ・同じ職種の方と知り合えるコミュニティ環境。 ・本社が東京にあるため、交通の便は重要。 ・日常生活の面では最低限のものが揃っていれば良い。 ・行政等と連携可能なプラットフォームの存在。 ・企業においては人材確保が課題であるため、大学・高専のような教育機関との連携があると良い。
中国圏・四国圏の魅力は?	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の景観や芸術が充実しているところ。 ・居住地から近い所に自然環境があるところが魅力的。 ・東京等の都会にはないコミュニティの程良い近さ。

出典:創造的人材(IT)等へのヒアリング(H29・H30)結果

02 / 四国圏の隙間・緩さの雰囲気が魅力

中国圏・四国圏の持続可能な地域づくりシンポジウムにおいて、徳島大学総合科学部地域計画学研究室田口准教授より「中国圏・四国圏の魅力は?」というテーマに対して以下のようなコメントがありました。

「四国に住んでいて感じることは、あまりきつくはない印象がある。これは楽観的というか、人間関係でもそこまでガツガツしてない、多少の垢抜けとか緩さがあり、隙間が**いっぱいあるという雰囲気が四国の良いところだと**

思う。これはお遍路文化も影響しているかもしれないが、そういう緩さがあるとふらっと地域に入り込みやすいという部分が生まれる。無自覚的緩さみたいなものだと思う。」

四国圏の隙間・緩さの雰囲気は地域独自の資源であり、こうした地域独自の資源を地域づくりに関わる多様な主体間で認識・共有し、関係人口・移住者誘致の取組に活かしていくことが必要と考えられます。

徳島大学総合科学部 地域計画学研究室 准教授 田口 太郎 / 中国・四国圏の持続可能な地域づくりシンポジウム-創造的人材と地域住民、行政の3者が連携した新しい取組み-のパネルディスカッション時における発言より